

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第1号

2025年10月15日

真庭市議会

議長 長尾 修 様

真庭市議会議員 奥 侑樹



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1. 区 分 調査研究
2. 訪 問 先 岡山県立岡山御津高等学校（岡山市北区御津金川 940）
3. 内 容
 学びの多様化および不登校支援に関する取組の実態調査。
 特に、2025 年度から導入された「フレックス制（全通併修）」の運用体制、
 通信制との連携方法、在籍生徒への支援体制、教員の指導・支援体制、
 並びに生徒主体の校則見直しや地域連携型探究学習の実践内容について調査する。
4. 行 程： 別紙のとおり
5. 事務局から訪問先への依頼： 必要



（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

行程表

日付：11月4日

時間：9:30-10:30

経路：自宅

- 岡山県立岡山御津高等学校（岡山市北区御津金川 940）

交通手段：自家用車

報 告 書

2025 年 11 月 4 日

真庭市議会議長 長尾 修 様

報告者 真庭市議会議員 氏名 奥 侑樹

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 2025 年 11 月 4 日（午前）10 時 30 分 至 2025 年 11 月 4 日（午前）11 時 50 分
2 場 所	岡山県立岡山御津高等学校（岡山県岡山市）
3 用 件	特色ある学校作りと学校組織改革の調査 ----- ----- -----
4 概 要	別紙のとおり

(1) 改革の背景

- 旧来の「適格主義」的指導（例：外形的規範適合を重視）により、中退率が高止まり。
地域・中学校からの信頼低下、生徒数減少が連鎖し、**「2年連続100人未満で再編対象」**の基準に迫る危機。
- 危機打開のため、教育理念と組織運営の抜本転換に着手。

(2) 教育理念のパラダイムシフト

- キーコンセプト：「**適格主義ではなく、預かった生徒をどうにか大事にする**」
- 高校を義務教育の延長として捉え、地域の全ての生徒を受け止めるセーフティネット化。
- 多様な価値観の受容へ舵切り（規範の一方的押し付けからの転換）。

(3) 具体策（多層セーフティネットの実装）

- **フリース（服装の自由化）**：生徒会主導のルールメイキング。導入後も7～8割は自発的に制服を選択し、主体性と成熟が進展。
- **コグトレ／SSTの学校設定科目化**：
 - コグトレ…SHR 後 10分×週5（合計50分/週）で認知機能・対人基礎力を継続育成。
 - SST……週1時間、協議型で実践的コミュニケーションを学習。
- **学校生活サポートルーム**：情緒のクールダウンと相談の常設拠点を整備。
- **フレックス制（岡山操山高校〈通信制〉との併修）**：
 - 御津在籍のまま併修可。校内完結運用／「1年F組」として正式クラス化。
 - 行事参加で集団適応を支援。
- **「マイプレイス」（校内の中学生向け進学支援拠点）**：
 - 文化祭等の**企画～実施の「途中過程」**に触れ、不登校経験者の進学不安を緩和。
 - 利用者から岡山御津高校への進学実績が生まれ、地域課題対応の窓口

(4) 推進力（教職員のマインドセット変革）

- 当初は理解者も少なかったが、指導的連帯（Guiding Coalition）を形成し、校外で戦略策定。
- **年度当初 1 週間の集中研修**：現場想定のカーススタディで理念を共有し、組織規範を早期確立。
- 反対意見も**対話で包摂**し、エネルギーに転化するリーダーシップ。

(5) 成果とインパクト

- **保護者の苦情が実質消滅**。
- 生徒アンケートで「先生は話を聞く・優しい」等の肯定が **9 割超**に上昇。
- 生徒主体の行事運営が活発化。学校全体の活気回復。
- 地域・中学校との信頼回復、進学先としての魅力再生。

(6) 結論・今後の課題・示唆

- **結論**：理念転換（「誰一人取り残さない」）×制度設計×人材（マインドセット）改革の三位一体で、危機を成長機会へ転換。
- **課題**：
 - 毎年度の新任教員への理念浸透・育成設計。
 - 発達特性等を含む生徒の**就職移行支援**（企業との橋渡し・地域包括連携）。
- **示唆（他校適用ポイント）**：
 - 危機は抜本改革の好機。年度初頭の**スタートダッシュ**が要。
 - 施策以上に、教職員の意識改革が成否を分ける。
 - 生徒の自己決定を制度で担保（規則の共創など）。
 - 地域課題（不登校支援等）への積極対応が学校価値を再創造。